

(別紙様式) 令和4年度 1人1台端末の活用による実践事例

学 校 名		岡山県立瀬戸高等学校	
実践者等		今田 秋紀	実践日 令和4年9月21・22日
実践場面 (教科・科目(単元名)、学校行事等)		数学Ⅰ 2次関数	
対象生徒(学年等)		普通科 1年(数学Ⅰ発展コース)	
育成を目指す資質・能力		☐ 知識・技能 ☒ 思考力・判断力・表現力等 ☐ 学びに向かう力・人間性等	
分類	授 業 中	☒ クラウドやアプリの活用 ☐ デジタルデータの保存 ☒ 思考やデータの可視化	
		☐ データの共有や共同編集 ☒ 対話を充実させる活用 ☐ 思考を促す活用	
		☐ 表現を充実させる活用 ☐ 課題のやり取りと評価の支援 ☐ 効率化や省力化	
		☐ その他 ()	
家庭学習		☒ 振り返り ☐ 探究 ☐ 反転学習 ☒ 補習・定着	
実践の内容			
【授業】2次関数のグラフの最大・最小の「A: 定義域の移動」と「B: 軸の移動」について、Geogebraを活用しながら、2つのエキスパートグループで考えた後、A・Bそれぞれが集まった班で最大値・最小値の求め方について考えていく授業。 (1) 前時の復習(1時間目) 「定義域(片方)の移動」について全体で、Geogebra で定義域を移動させながら、最大値・最小値の求め方を確認。 (2) (エキスパート活動)(1時間目) - それぞれ A・B の問題について、Classroom で配信した Geogebra を各自で動かしながら、範囲や最大値・最小値について考える。 (3) (エキスパートごとのグループ活動)(1時間目) (2) での内容をそれぞれのグループごとで、共有しながら、範囲や最大値・最小値の求め方について確認する。(この時間でできなかったものは家庭学習とした。) (4) グループワーク(ジグソー班)(2時間目) - A・B それぞれ2名ずつのグループを作り、それぞれの問題について説明し合う。 (5) 意見の共有(クラス全体)(2時間目) - 代表班に質問しながら、教師がそれぞれの問題について解説。 (6) 類題を解く(2時間目) - A・B どちらのタイプについても類題を解く。 【本時と家庭学習との連動】 (本時前)・前時の「定義域(片方)の移動」の問題について、Geogebra を活用して解く。 (本時後)・本時の「A: 定義域の移動」と「B: 軸の移動」の問題について、類題を活用して解く。			

